

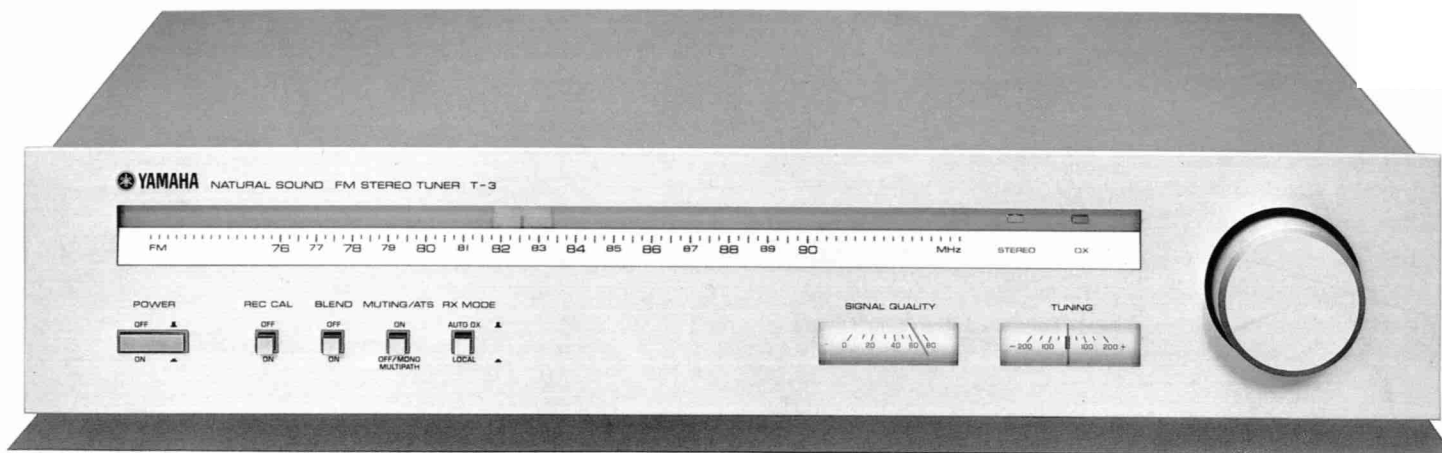


YAMAHA

FM STEREO TUNER

T-3

取扱説明書



■ごあいさつ

このたびは、ヤマハステレオチューナー T-3 をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

T-3 は、ヤマハの最新の高周波技術とオーディオ技術を結集して、FM電波の中に盛り込まれている情報をあますところなく再現するために完成された低歪率、高感度、高選択度の音楽性豊かなステレオチューナーです。

開発にあたっては、DC-NFB-PLL-MPX回路、微分利得直視法を駆使したIF段とオートDX回路、シグナルクオリティメーターやATS回路などヤマハ独自の新技术を加えて完成され、スムーズな操作性と共に透明度の高い音質を得ております。

T-3 のすぐれた性能をフルに発揮させると共に長年支障なくお使いいただくため、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

■特長

- フロントエンドにデュアルゲートMOS・FETと、FM 5連バリコンを採用、段間ダブルチューン構成と、AUTO DX回路付IFステージにより、高い妨害排除特性を実現しています。
- 微分利得直視法を駆使した7段差動カレントリミッタ付IF段は、新開発のオートDX回路によりあらゆる電波環境でも低歪率、ハイクオリティ受信を実現しています。また、LOCAL側では45dBの実効選択度を保持して、さらにワイドな再生音を得ています。
- 新方式のパイロット信号パーフェクトキャンセル回路付、DC-NFB-PLL-MPX回路を開発、MPXでの歪率0.003%以下、SN比100dB、DC~18KHzのワイドレンジ再生という桁違いの高性能を得ています。

■目次

ご使用になる前に/次のことにご注意ください	3
接続図	4
各部の名称と機能	5
●リアパネル	5
●フロントパネル	6
各機器との接続	8
放送受信	9
RX MODE、REC CALスイッチ、FMマルチパスについて	10
特性図	11
ブロックダイヤグラム	12
規格	13
故障と思われるときには	14
サービスのご依頼について	15

- 受信中の電波のクオリティを正しく表示する妨害検出型のシグナルクオリティメーターの採用は、最適同調点を正確にかつ自動的に保持するATS (Automatic Hold Tuning System) と相まって実に見事なFM放送再生を実現させています。
- ヤマハならではのタッチフィーリングと、スリムで優美なデザインを兼ね備えています。

ご使用になる前に／次のことにご注意ください



設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所



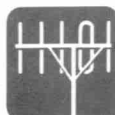
水に濡れたら

万一雨がかったり、花びんなどの水をセッ트에こぼした時はすぐに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。



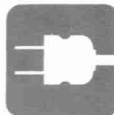
キャビネットを開けない

キャビネットや底板を開けて内部に手などを入れますと故障や感電事故を起すことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



FMアンテナを

放送局から離れた場所や、ビルなどが多く受信状態が悪いときにはFM専用アンテナを建ててクリアなFM放送をお楽しみください。



電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードをひっぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。旅行などで長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。
※ 本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外の〈例えば200V〉の電源コンセントには絶対に接続しないでください。



無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。



セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。



セットのお手入れには

セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。
お手入れには、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。



もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず14ページのトラブルチャートを見てください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保証書の手続きを

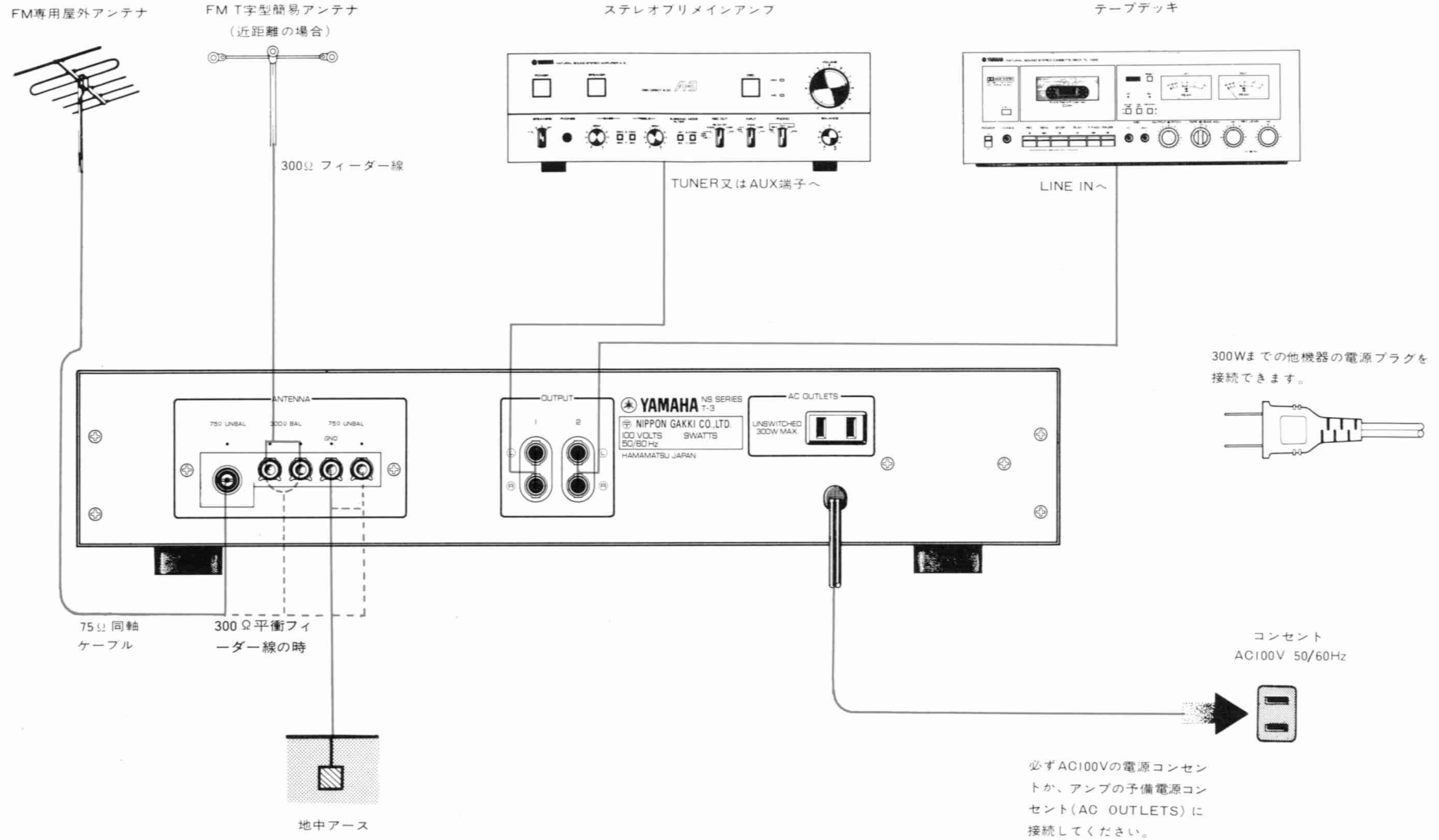
お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。よろしくお願いいたします。



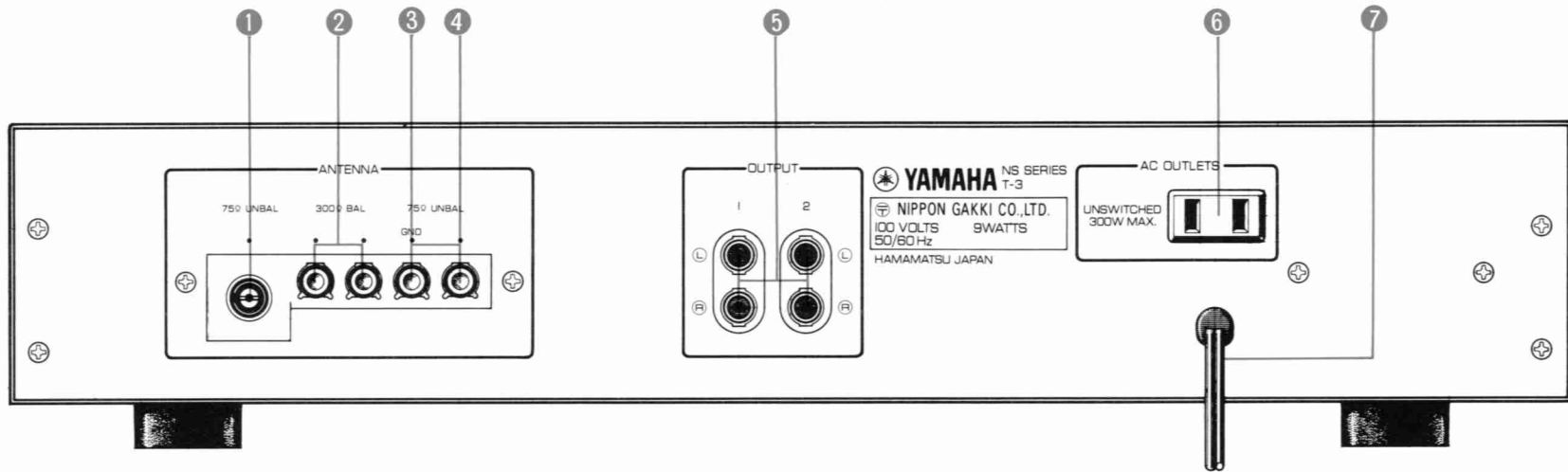
保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

接続図



●リアパネル



① FM ANT 75Ω UNBAL

(75Ω FMアンテナコネクター端子)

付属の同軸ケーブル用コネクターを接続する端子です。

② FM ANT 300Ω BAL

(300Ω FMアンテナ端子)

300ΩのBAL(平衡)タイプのフィーダー線を接続する端子です。

③ GND (アース端子)

アース端子です。

放送受信の際、雑音除去と安全のためにアースを接続することをおすすめします。

④ FM ANT 75Ω UNBAL

(75Ω FMアンテナ端子)

75ΩのUNBAL(不平衡)タイプの同軸ケーブルを接続する端子です。

⑤ OUTPUT (出力端子)

T-3の出力信号をとり出す端子で、ピンコードでプリメインアンプやテープデッキなどに接続してください。

⑥ AC OUTLET (予備電源コンセント)

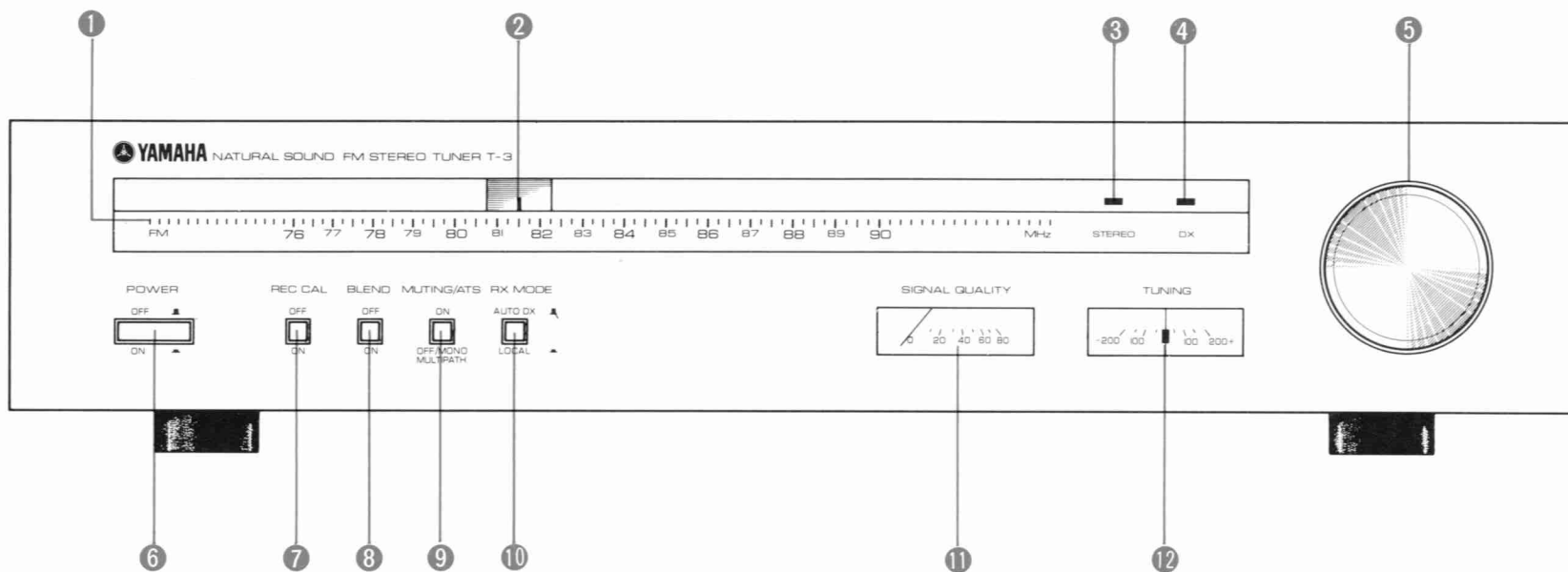
最大300Wまでの電源プラグを差し込んで他の機器にAC電源を供給することができます。

⑦ 電源コード

コードのプラグは必ずAC100V・50/60Hzの電源コンセントまたはアンプの予備電源コンセント(AC OUTLETS)に差し込んでお使いください。

各部の名称と機能

●フロントパネル



① FM ダイヤルスケール

FM用の周波数目盛りで、受信周波数の数字は、MHz（メガヘルツ）で示されています。

②ダイヤル指針

チューニングつまみを回わして、この指針のスリット部を希望の放送局の周波数に合わせてください。

POWERスイッチをONしますと指針は緑色に点灯しチューニングを容易にしています。

③STEREO(FMステレオインジケータ)

FM放送がステレオの場合、自動的に点灯しモノラルになると自動的に消えます。

BLEND押しスイッチをONにしますと、このインジケータは暗くなり、ブレンドがかかっていることを示します。

④DX (DXインジケータ)

⑩のRX MODEスイッチがAUTO DX(■)ポジションのとき、このインジケータが点灯している時はDX MODEで働いていることを示します。ローカルのNHKなど強力な電波に同調している場合はLOCAL MODEとなり、このインジケータは消えます。

⑤チューニングつまみ

このつまみを回して放送局を選択します。

SIGNAL QUALITYメーターとTUNINGメーターの両方を見ながら最良の受信状態にします。

⑥POWER (電源スイッチ)

このスイッチを押してON(■)にすると電源が入り、さらにもう一度押すとOFF(■)となって電源が切れます。

※電源スイッチをONにするとSIGNAL QUALITYメーターとTUNINGメーターおよび、ダイヤル指針照明ランプが点灯します。

⑦ REC CAL(録音レベル校正信号出力スイッチ)

このスイッチをON(■)にしますと、テープデッキの録音レベルを設定する333Hz(50%変調相当)の信号をOUTPUT端子よりとり出せます。

※P.10のREC CALスイッチについての項参照。

⑧ BLEND (ブレンドスイッチ)

弱電界地域などでFMステレオ放送を受信した時“シャー”という高域のノイズが多く聞きにくい場合、このスイッチをON(■)にしてください。ブレンド回路が動作して高域のノイズが効果的にカットされます。また放送電波が強い場合には、OFF(■)位置にしておきますとFMステレオ放送では、高域のセパレーションが良い状態でお楽しみいただけます。

⑨ MUTING/ATS (FMミュートイング/ATSプッシュスイッチ)

このスイッチをON(■)にしますと、ミュートイング回路が働いてFM放送選局の際に発生する放送局間の“ザー”というノイズを減少させます。

しかし受信電波が弱い場合には、ミュートイング回路が働いて聞きたい放送局まで消されてしまうことがありますので、受信電波の弱い放送を選局する場合には、スイッチをOFF/MULTIPATH(■)にしてお聞きください。

T-3のATS(Automatic Hold Tuning System)

とは、選局が終了し同調点に入りますと、約5秒後に自動的にATSが動作し確実に同調点を保持する回路方式です。

なお、受信したい放送局以外の放送局が近くにあったり、雑音源の近くの受信の場合は、このプ

ッシュスイッチをOFF/MONO MULTIPATH(■)にセットしてください。

※OFF/MULTIPATH(■)ポジションでは、FM電波のマルチパスを検出することができます。

⑩ またはP10を参照。

⑩ RX MODE(RX モードスイッチ)

FM放送を選局する際、T-3のオートDX回路を効果的に活用するスイッチです。

オートDX回路には、DXモードとLOCALモードとがあり、妨害電波の多い、遠距離受信には、高感度、高選択度のDXモードで、また妨害電波の少ない入力電波レベルが十分に高い場合の受信には、低歪率、高セパレーション、広帯域のLOCALモードで、というように受信する電波の状態に応じて自動的に切り換わって動作する機能がありますので、通常はこのプッシュスイッチはAUTO DX(■)ポジションでの使用をおすすめいたします。

●AUTO DX(■)ポジション

弱電界地域の受信や妨害の多い電波を受信する際このポジションにしてください。DXインジケータが点灯し、よりクリアな放送を受信します。妨害が少なく、アンテナ入力がある電波を受信した場合には、DXインジケータは消えて自動的にLOCAL MODEとなります。

※一時的に強い妨害電波が入ってきて(近所に障害物を通るなどして)一時的に電波が弱くなった場合にはDXインジケータが点灯しますが、このときはチューニングつまみを回してもう一度選局しなおすかLOCALポジションに切り換えてください。

●LOCAL(■)ポジション

電波が十分に強い地域では、このポジションでより解像度の高いワイドレンジで受信することができます。

⑪ SIGNAL QUALITY(シグナルクオリティメーター)

放送を選局する際、チューニングつまみを回してこのメーターの針が右側に安定して一番振れるようにします。

T-3に採用されているシグナルクオリティメーターと妨害電波検出回路は、受信中の電波の質(雑音成分や妨害電波の有無)を表示することができます。つまり妨害電波や雑音成分が多い場合はこのメーターの指針がふらついたり、振れ具合が低下したりして受信電波の「質」の低下を表示します。

※FM受信の際、MUTING/ATSスイッチをOFF/MONO MULTIPATH(■)にして、メーターの指針がこきざみに振れている場合には、マルチパス(多重反射)を検出していることを示しています。マルチパスが検出されている場合には、P.10のマルチパスの検出の項を参照の上、調整してください。

⑫ TUNING(チューニングメーター)

FM放送を受信する際、チューニングつまみを回し、シグナルクオリティメーターが右に大きく振れて、メーターの指針がセンターにくるようにします。

FM アンテナの接続

① T字型簡易アンテナの接続

付属のT字型簡易アンテナは、放送局に近い電波の強い地域用です。

まず、T字型簡易アンテナのフィーダー線をリアパネルのFM 300Ω端子に接続し(図1)、水平部分の両端をピンと伸ばし、ゆっくりと180度回転させて最も受信状態の良い方向を選び、壁などに固定してください。

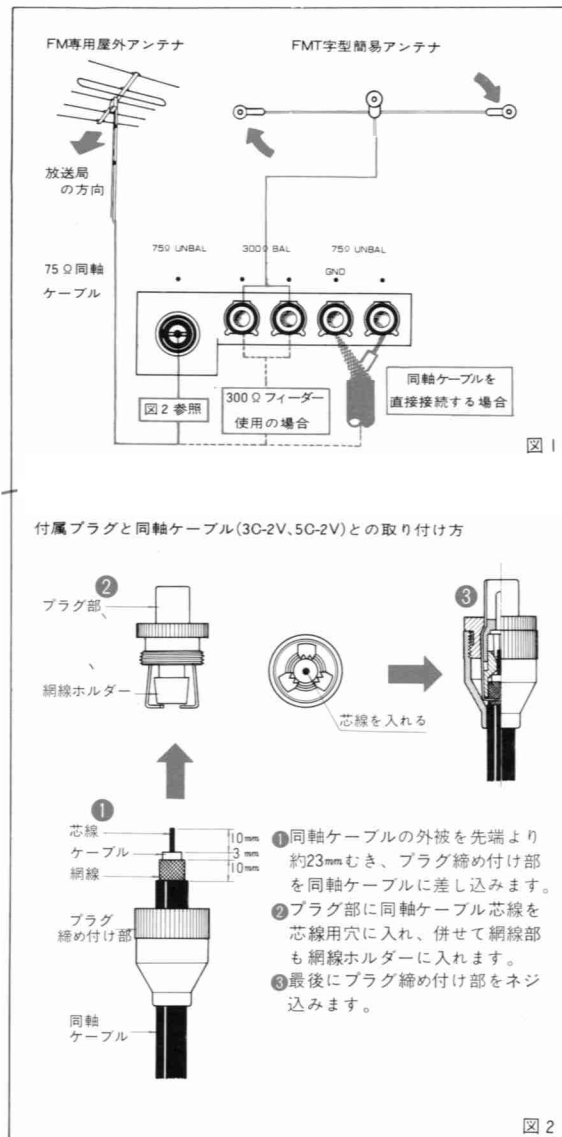
このT字型簡易アンテナをスチール製の棚やロッカー等に固定いたしますと、アンテナの効果を著しく低下させ、満足ゆくFM放送受信ができなくなる場合がありますのでご注意ください。

② FM用屋外アンテナの接続

T字型簡易アンテナで十分な受信ができない場合には、FM用屋外アンテナを建ててください。

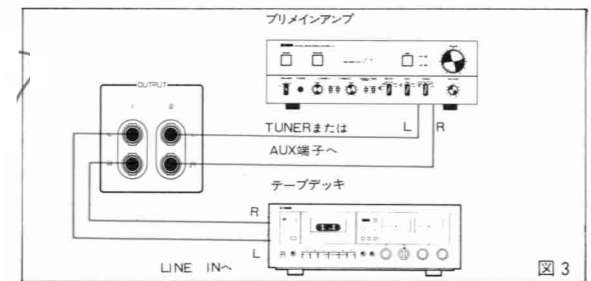
- 本機のリアパネルには、FMアンテナの接続端子として300Ωと75Ωの2つの端子があります。FM用屋外専用アンテナとの接続には300Ω平衡フィーダーまたは、75Ω同軸ケーブルのどちらでも使えますがオートバイや自動車のイグニッションノイズなどの外部雑音が多い場合には、75Ω同軸ケーブル(3C-2Vや5C-2V)のご使用をおすすめいたします。

同軸ケーブルをT-3リアパネルの75Ω UNBALコネクタに接続する場合は、図2のように同軸ケーブルを付属のプラグに取り付けてから接続してください。なおプラグを使用しない場合は、図1のように同軸ケーブルの芯線をアンテナ端子の一番右側の端子に、より合わされた網線部分をGND端子に接続します。



ステレオアンプ、テープデッキの接続

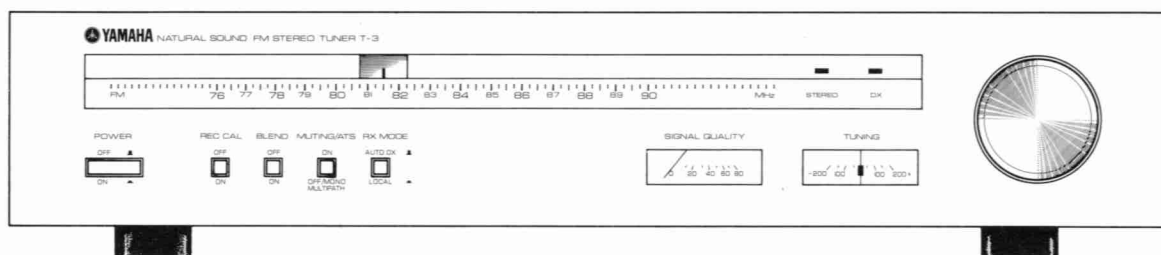
T-3のOUTPUT(出力端子)は1、2の2系統用意されています。どちらも出力500mV/4kΩ(FM100%変調時)の信号が出ていますのでステレオアンプとテープデッキとに同時に接続することができます。図3のようにT-3の1、2のどちらかのOUTPUT端子とステレオアンプのTUNER入力端子とを付属のピンコードでL(左)、R(右)を正しく接続します。またテープデッキに接続する場合は、テープデッキのLINE IN端子とT-3のOUTPUT端子とを接続します。



※接続上のご注意

- T-3のOUTPUT端子と、ステレオアンプやテープデッキのINPUT端子との接続は、必ず同じチャンネル(LとL、RとR)につないでください。
- 接続はピンプラグを確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと音が出なくなったり、雑音の発生する原因となります。
- 入・出力コードを、電源用コードやスピーカーコードと一緒に束ねたり、小さな直径でぐるぐる丸めたりしますと不要なハムや雑音を拾ったりすることがありますのでご注意ください。

FM放送の受信

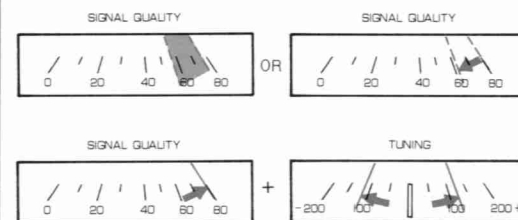


- ① アンテナやアンプとの接続を確かめ、POWER スイッチをONにします。
- ② MUTING /ATS スイッチは、通常ON、RX MODE スイッチもAUTO DX(■)のポジションにしておきます。
※このとき離調点ではDXインジケータが点灯します。
- ③ 放送がステレオの場合には、STEREOインジケータが点灯し、モノラルになると自動的に消えます。
- ④ SIGNAL QUALITYメーターの振れが最大、TUNINGメーターの指針がセンターに位置するようにTUNINGツマミを回して同調をとってください。(図4)
ただし、このメーターの指針がセンターに位置しているときより、少しずれたときの方が、シグナルクオリティメーターの指針の振れが大きい場合は、妨害電波があることを表示しています。センターに指針が来たとき、シグナルクオリティメーターの振れが最大になるようにアンテナの向きや高さを調整してください。

- ⑤ TUNINGツマミを回して希望放送局の付近にダイヤル指針を合わせてください。
※受信電波が十分に強い場合にはLOCAL MODEとなり、DXインジケータは消えます。
ステレオ放送受信の際、雑音(シャーという高域成分雑音)が多く聞き苦しい場合は、BLEND(ブレンド)プッシュスイッチを押してON(■)にセットしてください。若干、左右のセパレーションは悪くなりますが、雑音がカットされ聴き易くなります。このときステレオ放送でSTEREO表示されていますと、STEREOインジケータの輝度が落ち、ブレンド回路が働いていることを表示します。
※放送局からある程度離れた弱電界地域でFM放送を受信するときや、希望放送局の電波が、周波数の隣接した他の放送局からの妨害により受信困難な場合には、MUTING/ATSスイッチをOFF/MULTIPATH(■)のポジションにセットし、さらにRX MODEスイッチをAUTO DX(■)にすれば効果的に希望する電波を容易にとらえることができます。

SIGNAL QUALITYメーターとTUNINGメーターの見方

妨害電波がある場合のメーターの振れ方



チューニングメーターの針がセンターに位置しているときより、少しずれたときの方が、シグナルクオリティメーターの指針の振れが大きい場合は、妨害電波があることを表示しています。センターに指針が来たとき、シグナルクオリティメーターの振れが最大になるようにアンテナの向きや高さを調整してください。

妨害電波がない場合のメーターの振れ方



RX MODEスイッチについて

T-3のRX MODEスイッチ(図5)は、遠距離や妨害の多い放送局の受信に効果を発揮するスイッチです。

●AUTO DX(■) ポジション

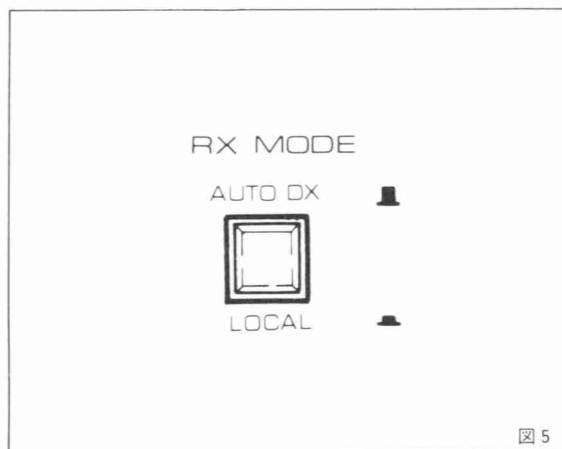
弱電界地域や隣接局の妨害が多い電波を受信する場合には、このポジションにするとAUTO DX回路が動作して自動的にDX MODEとなり、DXインジケータが点灯します。AUTO DX(■)ポジションでは、弱い電波の受信には高い妨害排除特性と高感度を維持します。また、放送電波が充分強い場合は自動的にLOCAL MODEに切り換わってよりワイドで歪の少ない音質となります。

●LOCAL(■) ポジション

アンテナ入力が十分に大きく妨害の少ない電波のみを受信する場合には、このポジションにしてください。

音質本位の低歪率特性となりますので、解像度の高い透明感のある音質となります。

※放送局から離れた弱電界地域ではDXポジションでのご使用をおすすめします。



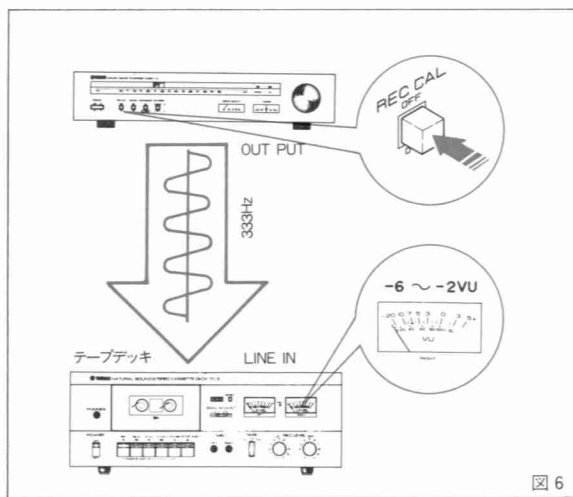
REC CALスイッチについて

FM放送を良質な音で録音するには、適切な録音レベルの設定が必要です。REC CALスイッチを押してON(■)にすると、OUTPUT端子に333Hz (50%変調相当)の信号が出てきますので、テープデッキを接続して録音する場合、プログラムに関係なく常に適切な録音レベルを決めることができます。(図6)録音レベルを合わせるときは、デッキのVUメーターのレベルが下表の値付近となるように、デッキのLINE入力ボリュームを調整してください。

使用テープ	REC CAL信号によるセッティングレベル
C,O ₂ テープ	-6 VU
L H テープ	-4 VU
F,Cr テープ	-2 VU

※厳密にはFMの変調度等により異なりますが一応上の表を目安としてください。

※REC CALのポジションで電源スイッチをOFFにしますと、多少信号音が残ります。



FMマルチパスとは

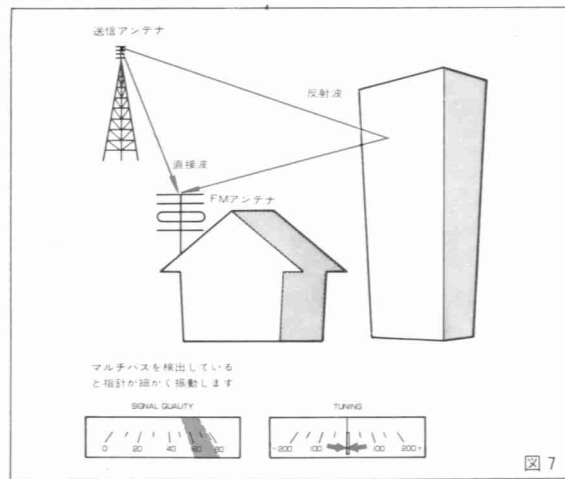
FMマルチパスとは、TVのゴーストと同じような現象で図7のようにFM電波が受信アンテナに直接入ってくる直接波と、山やビルなどの障害物にぶつかってくる反射波とに分かれて異なった方向から受信アンテナに入ってくることをいいます。

マルチパスは直接波と反射波のわずかな時間的なズレで、受信音を歪めたり、セパレーションやSN比を悪くしたりします。

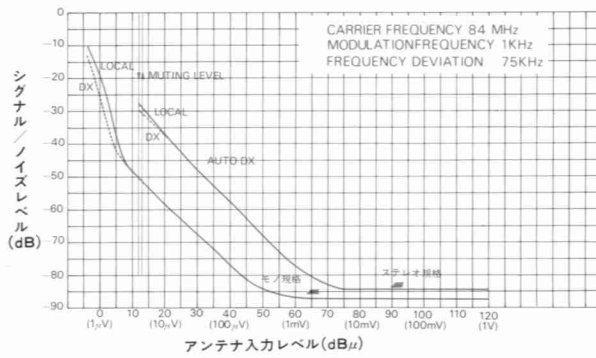
マルチパスを防ぐには、指向性の鋭いアンテナを使って、アンテナの高さや方向を実際に検討してマルチパスの妨害を受けにくい場所にアンテナを建てる必要があります。

マルチパスの検出

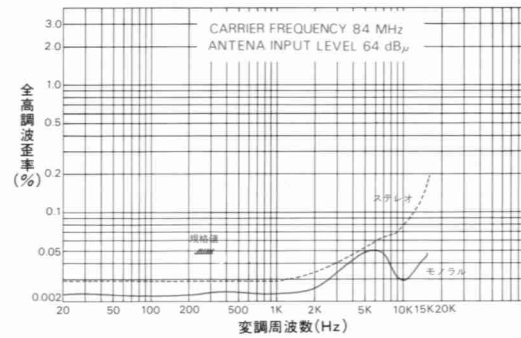
FM受信時に、MUTING/ATSスイッチをOFF/MULTIPATH(■)にセットしてシグナルメーターの指針が細かく振動するときは、マルチパス妨害を検出していますのでアンテナの向きや位置を変えてメーターの指針が安定するように、アンテナを再調整してください。



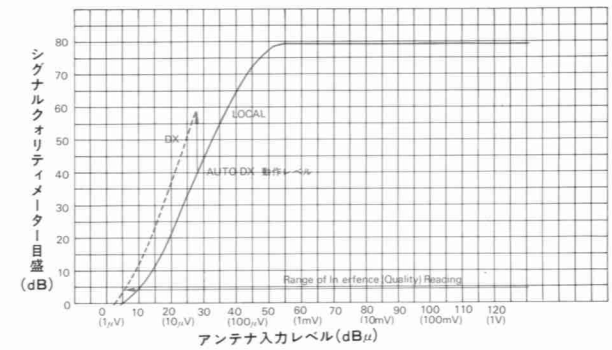
■ アンテナ入力レベル対出力及びノイズレベル



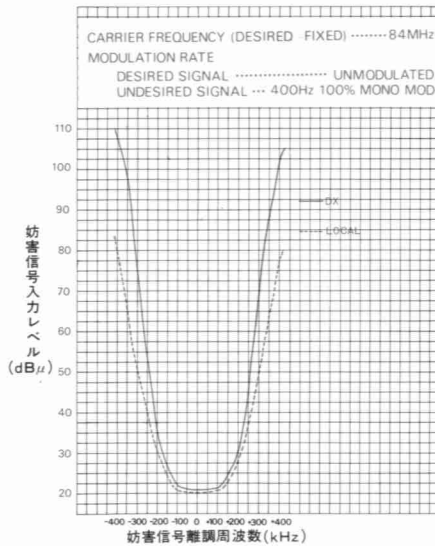
■ 周波数対全高調波歪率



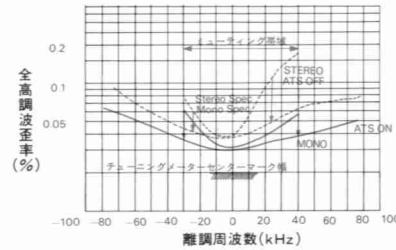
■ シグナルクオリティメータ指示特性



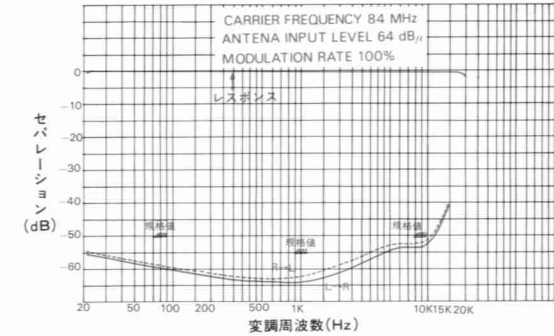
■ 実効選択度特性

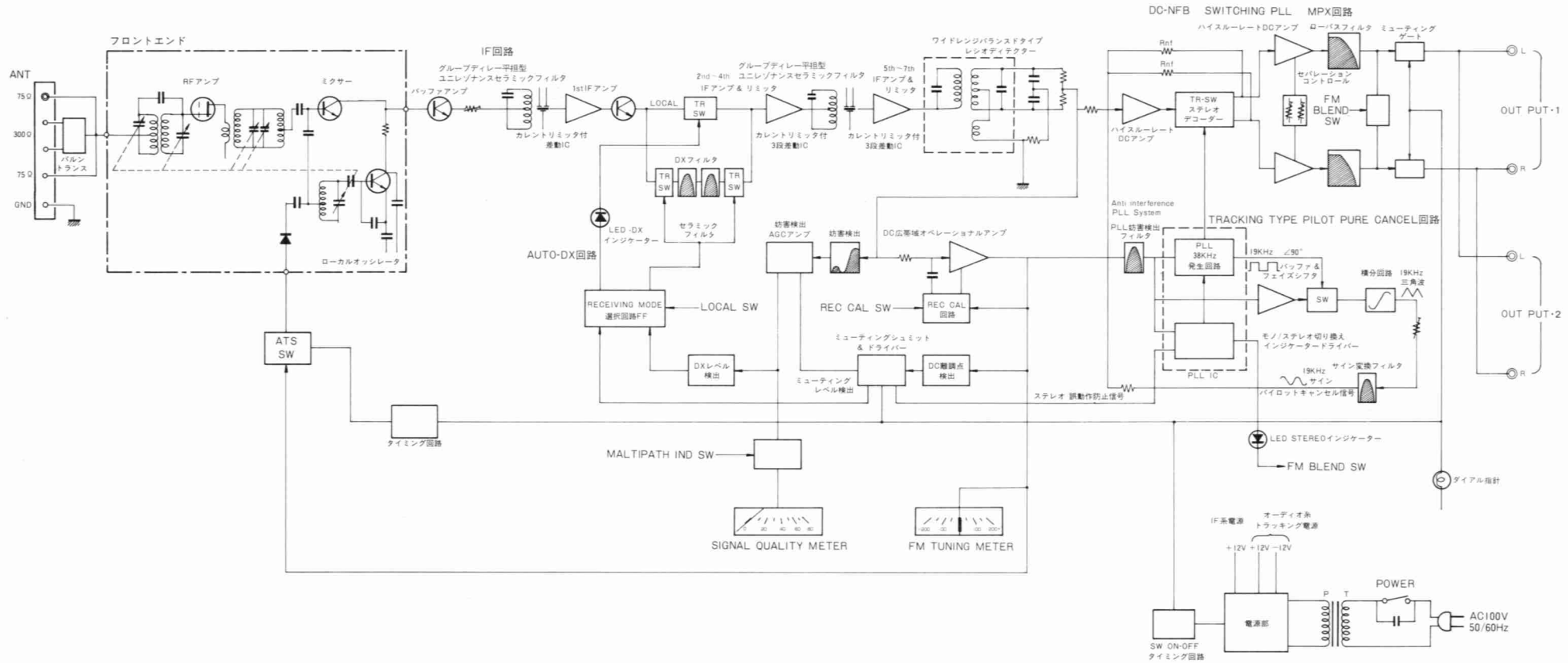


■ 歪率の同調依存性



■ ステレオセパレーション特性





受信周波数	76~90MHz	
実用感度		
IHF MONO(84MHz)	1.8 μ V(300 Ω)	10.3dBf
	0.9 μ V(75 Ω)	10.3dBf
50dB S/N感度	MONO	3.2 μ V15.3dBf
	STEREO	38 μ V36.8dBf
イメージ妨害比(84MHz)	120dB	
IF妨害比(84MHz)	100dB	
スプリアス妨害比(84MHz)	120dB	
AM抑圧比(IHF)	65dB	
キャプチャレシオ(IHF)	1.0dB	
実効選択度	DX	82dB
	LOCAL	45dB
S/N	MONO	86dB
	STEREO	84dB
ステレオセパレーション	1KHz	55dB(LOCAL MODE)
	50Hz~10KHz	50dB(LOCAL MODE)
周波数特性	50Hz~10KHz	± 0.3 dB
	30Hz~15KHz	± 0.5 dB
	10Hz~18KHz	+0.5、-3.0dB

サブキャリア抑圧比	65dB	
ミュート信号レベル	5 μ V 19.2dBf	
AUTO DX動作レベル	30 μ V 34.8dBf	
全高調波歪率 MONO	100Hz	LOCAL MODE 0.05%
	1KHz	" 0.05%
	6KHz	" 0.08%
	10KHz	" 0.05%
	STEREO 100Hz	" 0.05%
	1KHz	" 0.05%
	6KHz	" 0.08%
	10KHz	" 0.1%
IM(混変調)歪率(IHF)MONO	"	0.05%
	STEREO	" 0.08%
■オーディオセクション		
出力レベル/インピーダンス		
FM(100%変調)	500mV/4K Ω	
REC CAL信号	250mV/4K Ω	
	(333Hz : FM時の50%変調出力に相当)	

■付属機構		
FM AUTO DX回路、FMブレンド、FMミュートイング & ATS、REC CAL(レコーディングキャリブレーター)、ファンクション、FMチューニングメーター、シグナルクオリティメーター		
■総合		
使用半導体	トランジスター	42
	IC	5
	FET	1
	ダイオード	10
	ツェナーダイオード	2
	発光ダイオード	2
	セラミックフィルター	4
AC OUTLETS	300W MAX	1
定格電源電圧	AC100V	
定格消費電力	9W	
定格電源周波数	50/60Hz	
外形寸法(W×H×D)mm	435×94×332	
重量	5.5kg	

※規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

故障と思われるときには

症 状	原 因	処 置
“バリバリ、ガリガリ”という雑音が多々入る（電波の弱い地域ほど著しい）	モーターバイクや自動車などのイグニッションノイズ	FM専用アンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に建て、接続には、同軸ケーブルを使用してください
	サーモスタットつき電気器具の雑音	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてみてください
ステレオ放送になると雑音が多くなり聞きづらい	FMステレオ放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力 が弱い場合に起こる	BLENDをONかMUTING-ATSをOFF/MULTIPATHに切り換えてください
		アンテナの接続を確認してください
		FM専用アンテナを建ててください
		FM専用アンテナを多素子のものにしてみてください
ステレオ放送受信時、FM STEREOインジケータがチカチカ点滅し雑音も多い	アンテナ入力の不足	受信地域の電界強度に合ったアンテナを建ててください
	同調が完全にとれていない	正確に同調をとり直してください
FM専用アンテナを建てているが音が歪み、クリアな受信ができない	アンテナ入力が強すぎる	T字型簡易アンテナにつけかえてみてください
ステレオ・テスト放送で、左側の音が右側にもれる	クロストーク（漏話）現象で、わずかに出ている場合は正常	右側へのものが左側の音に比べ、極くわずかであれば正常で、故障ではありません

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器各支店オーディオサービス係へお願いいたします。

■本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われるときには…”の項をお読みになつてください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けして伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(ステレオの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしなごすみます。)

■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右のオーディオサービス係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

■サービスのお約束

昼間ご不在がちのお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■各支店住所 (オーディオサービス係)

東京支店・〒101	東京都千代田区外神田3-10-12 TEL (03)255-2241
横浜支店・〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL (045)212-3111
千葉支店・〒280	千葉県千葉港2-1(千葉中央コミュニティセンター内) TEL (0472)47-6611
関東支店・〒370	高崎市歌川町8番地(高崎センター内) TEL (0273)27-3366
大阪支店・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1 TEL (06)448-5731
神戸支店・〒651	神戸市響合区浜辺通り6-1-36 TEL (078)232-1111
四国支店・〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL (0878)33-2233
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸支店・〒921	金沢市泉本町7-7 TEL (0762)43-6111
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL (0222)95-6111
広島支店・〒731-01	広島市祇園町西原862 TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市田町32 TEL (0534)54-4115

日本楽器製造株式会社

- 本社・工場 〒430・浜松市中沢町10-1
TEL・0534(65)1111
- 東京支店 〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL・03(572)3111
- 銀座店 〒104・東京都中央区銀座7-9-14
TEL・03(572)3131
- 渋谷店 〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7
TEL・03(476)5441
- 池袋店 〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL・03(981)5271
- 横浜支店 〒231・横浜市中区本町6-61-1
TEL・045(212)3111
- 横浜店 〒220・横浜市西区南幸2-15-13
TEL・045(311)1201
- 千葉支店 〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内
TEL・0472(47)6611
- 関東支店 〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内
TEL・0273(27)3366
- 大阪支店 〒564・吹田市新芦屋下1-16
TEL・06(877)5151
- 心齋橋店 〒542・大阪市南区心齋橋筋2-39
TEL・06(211)8331
- 神戸支店 〒651・神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36
TEL・078(232)1111
- 神戸店 〒650・神戸市生田区元町通2-188
TEL・078(321)1191
- 四国支店 〒760・高松市西宝町2丁目6-44
TEL・0878(33)2233
- 四国店 〒760・高松市丸亀町8-7
TEL・0878(51)7777
- 名古屋支店 〒460・名古屋市中区錦1-18-28
TEL・052(201)5141
- 北陸支店 〒921・金沢市泉本町7-7
TEL・0762(43)6111
- 九州支店 〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL・092(472)2151
- 福岡店 〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL・092(721)7621
- 小倉店 〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL・093(531)4331
- 北海道支店 〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター
TEL・011(512)6111
- 仙台支店 〒983・仙台市原町南目薬師堂北2-1
TEL・0222(95)6111
- 仙台店 〒980・仙台市一番町2-6-5
TEL・0222(27)8511
- 広島支店 〒730・広島市紙屋町1-1-18
TEL・0822(48)4511
- 浜松支店 〒430・浜松市田町32
TEL・0534(54)4115
- 浜松店 〒430・浜松市鍛冶町122
TEL・0534(54)4111
- 海外支店 ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ
シンガポール・フィリピン